



シバツトガ成虫(夜間) 「目でみるゴルフ場の芝草・樹木害虫」より

見つけにくい芝草の害虫

芝生の害虫は①土壌害虫（潜土性または潜伏性）が多いことと②成虫の活動が夜行性であることが多いことなどから発見されにくく、長い間「芝草には害虫がつかない」とすら思われてきました。芝草害虫とはどのようなものか、改めて確認しておきましょう。

芝草に与える影響が大きい重要な害虫は、

- ①ガ(蛾)類…芝草の茎葉部を食害する
(=チョウ目あるいは鱗翅目(りんしもく)ともいう)
- ②コガネムシ類…芝草の根部を食害する
(=甲虫目あるいは鞘翅目(しょうしもく)ともいう)

の大きく二種類とされています。コガネムシ類幼虫による芝草根部の食害被害は深刻ですが、その発生は年1回程度でかつゆっくりです。それに対しガ類は年3回、多い場合は4回発生するので、被害発生が突然でかつ急速に拡大するため特に注意が必要です。

ガ類の中でも芝草にとって特に重要なのはシバツトガ、スジキリヨトウ、タマナヤガの三種で、「芝生用殺虫剤」の登録のある剤ならばほとんどがこのいずれかに適用があります。

そのうちのひとつ・シバツトガは、もともとアメリカの牧草害虫(英名：ブルーグラス・ウェブワーム)で、ティフトンシバと一緒に輸入され定着した芝草害虫です。外来種なので天敵がおらず、急速に被害が広がります。

成虫は体長が1cmにも満たない小さなガ(開張しても2cmほど)で、日没後に飛来する夜行性です。蛹を出てから1~2日後に交尾・産卵、長径0.5mmの卵を地表にばらばらと産み落とし、卵は約1週間でふ化。ふ化率は非常に高いそうです。幼虫(約1ヶ月)の間に芝草を食害、脱皮を繰り返して約1mmから2cmほどまでに成長、蛹となります。なお蛹の期間も成虫の寿命もともに約一週間です。それを年3~4回繰り返し、幼虫の状態で越冬します。



シバツトガ成虫(昼間) 「目でみるゴルフ場の芝草・樹木害虫」より



シバツトガの卵 「ユニカス製品案内」より

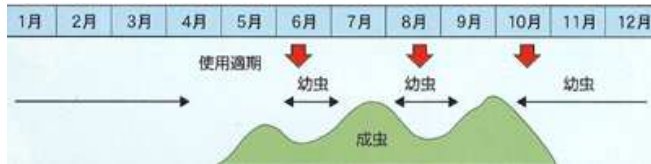


シバツトガ被害地における老熟幼虫 「目でみるゴルフ場の芝草・樹木害虫」より



シバツトガ被害の品種間差異、(左)コウライシバ(右)ノシバ 「芝生の病虫害と雑草」より

→シバツトガ防除適期 「風神フロアブルパンフレット」より



シバツトガ幼虫による食害被害の大きさは芝草の品種によって大きく異なり、最もひどいのがベントグラス、次がティフトンシバ、パミューダグラス、コウライシバ、ノシバの順とされています。低い刈高にも適応します。被害は6月中旬から発生しますが、高温・乾燥を好むので特に8~9月は注意が必要です。防除は、ふ化直後の幼虫への農薬散布が最も効果的です。

なお同じガ類でも、スジキリヨトウは周辺の立木や灌木に産卵することが多く、その同心円状に幼虫が芝草を食害する傾向があります。一方タマナヤガは、ほぼ垂直につくる直径約8mmの生育孔による被害が中心です。



シバツトガ被害状況。高温・乾燥時には1~2日で上のように黄変することも 「芝生の病虫害と雑草」より

製品紹介

風神フロアブル

独特の作用特性で抵抗性害虫にも有効



- 有効成分：インドキサカルブMP 10%
- 毒性：普通物
- 魚毒性：A類相当(原体はB類)
- 原体メーカー：デュボン
- 包装：250ml/本、20本入り/ケース



- 鱗翅目(チョウ目)害虫に高い効果があり、若齢幼虫はもちろん老齢幼虫にも効きます。
- 散布した作物を摂食後、すぐに麻痺状態にして作物を食べなくなり、数日後死に至ります。
- 神経系情報伝達阻害剤ですが、独特の系統なので抵抗性害虫にも有効です。
- 臭いがないため周辺住民に対して不快感を与えません。
- 養殖池等周辺での使用は避けてください。
- 蚕やミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、本剤の飛散に十分注意してください。

作物名	適用害虫名	使用時期	希釈倍率	希釈液散布量/10a
芝	スジキリヨトウ	発生初期	2000～4000倍	200～300L
	シバツツガ		1000倍	100L
さくら	アメリカシロヒトリ	-	2000倍	200～300L

MONTHLY TOPICS

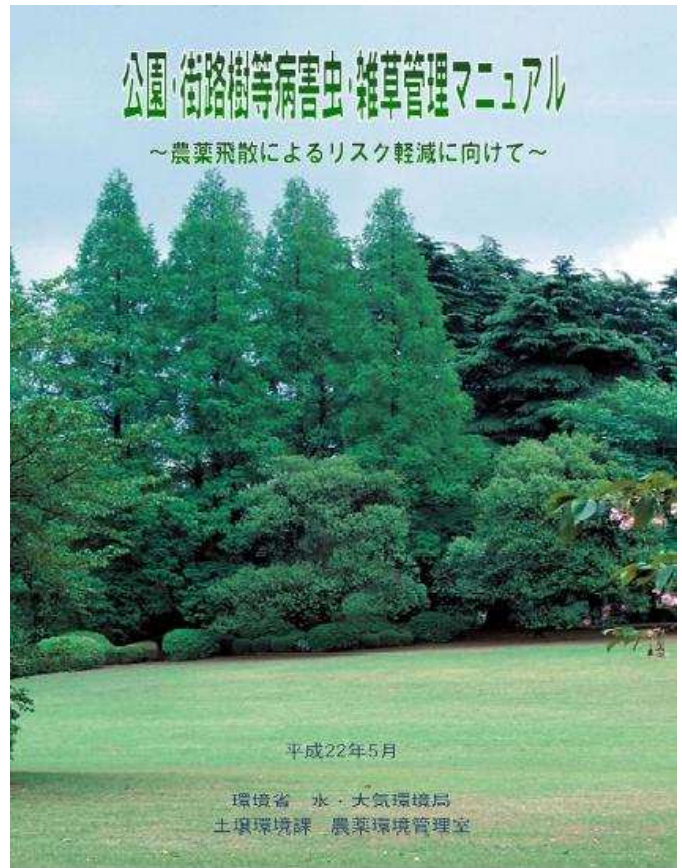
環境省が「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」策定、公開

環境省が平成22年5月31日付で「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル ～農薬飛散によるリスク軽減に向けて～」を策定、公表しました。

これは、住宅地や公園、道路の病虫害管理が農地のそれに比べて十分ではなく、また自治体により考え方がまちまちであることから、その基本的な考え方を整理するために策定されたものです。具体的には、多くの自治体で公園緑地などの病虫害管理で比較的安易に農薬散布が行われ、かつ業者への委託が一般化している一方で、洗濯物等への飛散や健康不安といった農薬散布に関する苦情が増加傾向にあることを背景としています。

このマニュアルでは、農薬のいたずらな散布を控え、やむを得ず散布する場合でも人や周辺環境への影響を低減させること、また周辺住民などとのコミュニケーションを図ることなどが促されており、その具体的な方法も提示されています。今後は、人体に危害を及ぼすことがない害虫や厳しい検査で安全性が保障された農薬に対して、誤ったイメージを抱いている方への説明や、最近まで知られていなかった化学物質過敏症患者の方への配慮など、ますます求められてくることでしょう。

このマニュアルはホームページで参照・印刷できます (http://www.env.go.jp/water/dojo/noyaku/hisan_risk/manual1_kanri.html、または 環境省ホームページ→水・土壌・地盤環境の保全→農薬対策関係)。序文には「一般の緑地等の管理にも有効であり、全ての関係する方に参考として活用されることが期待される」と書かれています。ぜひご一読ください。



<目次>

1. 本マニュアルの趣旨・目的等
2. 基本的事項
3. 植栽に用いる花木等の選定・配置等
4. 主要な病害虫等
5. 病害虫等の確認及び防除の判断
6. 物理的防除等
7. 農薬による防除
8. 病害虫に対する理解の増進
9. 関連法令・通知等
10. 参考文献等

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ

 株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上150番地
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968